ブドウ黒とう病情報第１号

令 和 ７ 年 ６ 月 １ ７ 日
愛 知 県 農 業 総 合 試 験 場
環境基盤研究部病害虫防除室

ブドウ黒とう病の発生がやや多い状況です

１　ブドウ黒とう病の発生状況

５月下旬に行った巡回調査（県内 18 ほ場調査）において、ブドウ黒とう病の**発病新梢率は 1.06%（平年 0.79%、前年 0.56%）で、過去 10 年間と比較して３番目に高く、発病ほ場率は２番目に高い状況**です。

また、本病は、病斑に分生子を形成し、雨滴とともに感染を繰り返します。気象庁の速報値によると６月９日頃梅雨入りとなっており、降雨により発生量が増加する可能性があるため、注意が必要です。

２　防除対策

（１）使用時期（収穫前日数）に注意し、下表を参考に防除を実施しましょう。
（２）シャインマスカットは巨峰より本病に弱いため、特に防除を徹底しましょう。
（３）本病は病斑に分生子を形成し、雨滴とともに感染を繰り返します。発病部位は見つけ次第除去し、園外へ持ち出し適切に処分しましょう。また、袋掛けが終わっていないほ場は、早めの袋掛けに努めましょう。
（４）スピードスプレーヤーで防除する場合、薬剤がかかりにくい場所は手で散布するなどして、かけ残しがないようにしましょう。

表　ブドウ黒とう病に対する主な防除薬剤

薬剤名		使用時期	本剤の使用回数	FRAC コード
オーソサイド水和剤８０	※１	収穫30日前まで	３回以内	Ｍ４
ファンタジスタ顆粒水和剤		収穫14日前まで	３回以内	11
ベランティーフロアブル		収穫前日まで	３回以内	3
オンリーワンフロアブル		収穫前日まで	３回以内	3
カナメフロアブル		収穫前日まで	３回以内	7
スクレアフロアブル	※２	収穫前日まで	３回以内	11
ＩＣボルドー６６Ｄ	※３	－	－	Ｍ１

収穫前日数に注意して散布すること。
薬害、よごれを生じるおそれがあるため、農薬ラベル、使用上の注意事項に注意すること。
※１　石灰硫黄合剤、ボルドー液などアルカリ性薬剤及びマシン油剤との混用はさけること。
幼果期～袋掛けまでの散布は、果粉の溶脱や果実の汚染を生じることがあるので十分注意すること。
※２　花粉の溶脱を生じるおそれがあるので注意すること。
※３　石灰硫黄合剤、有機リン剤、マシン油乳剤等を混用すると薬効を減じ、また薬害を起こす原因となるので使用しないこと。ぶどうの無袋栽培で使用する場合、果房に汚れが生じるおそれがあるので果実肥大期以降の散布はさけること。
FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。
FRACコードの詳細はhttps://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/code_pdf01_2024.pdfを参照する。農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。